ココから元気の出る歌集

夏の歌　愛唱歌　あなたにエール!!

城直美　編

高島平ココからステーション　監修

2020 年 7 月

富士の山

明治四十三年

巌谷小波作詞　作曲者不詳

1　あたまを雲の　上に出し
四方(しほう)の山を　見下ろして
かみなりさまを　下に聞く
富士は日本一(にっぽんいち)の山

2　青空高く　そびえたち
からだに雪の　きもの着て
かすみの裾(すそ)を　遠くひく
富士は日本一の山

✦富士の山

２０１３年に世界文化遺産に登録された富士山を歌ったもっとも有名な曲。現在でも小学三年生の音楽教科書に載っています。作詞の巌谷小波は明治から大正にかけて活躍した作家、児童文学者、俳人で、『桃太郎』や『花咲爺』などの多くの民話や昔話を生まれ変わらせたことでも知られています。日本に住む多くの人はその容姿の美しさにあこがれを抱き、かつ畏敬の念を持って接してきたことでしょう。かつては自宅や駅舎から遠く眺めることが出来た方も多かった？東京はじめとして栃木・山梨・長野等に富士見という地名が多く残っています。江戸(東京)では単純に富士が見えたから、だけではなく富士見→不死身、縁起が良い意味があったと言われています。

夏は来ぬ

明治二十九年

佐々木信綱作詞　小山作之助作曲

1　卯(う)の花の　におう垣根に
ほととぎす　早も来なきて
忍(しの)び音(ね)もらす　夏は来ぬ

2　さみだれの　そそぐ山田に
早乙女(さおとめ)が　もすそぬらして
玉苗(たまなえ)植うる　夏は来ぬ

3　たちばなの　香(かお)るのきばの
窓近く　ほたる飛び交い
おこたり諫(いさむ)むる　夏は来ぬ

✦夏は来ぬ

卯の花　ほととぎす　五月雨　田植風景　橘　蛍・・・

初夏を彩る風物を盛り込んだこの季節ならではの名曲です。２００７年に日本の歌百選に選出されています。卯の花（ウツギ）は、小さな真っ白な花でまさに初夏の象徴。5月下旬から入梅の頃の様子を文語調で整え、曲調は明るく夏が来たぞという高揚した気分をかもしだしています。この歌を一番歌いたい時に今年は「お家にいましょう」の自粛期間でしたので、皆で高らかに歌うことはできませんでしたが、名曲はいつ歌っても良いものです。

蛍

昭和七年

井上赳作詞　下総皖一作曲

1　ほたるのやどは　川ばた楊（やなぎ）
　楊おぼろに　夕やみ寄せて
　川のめだかが　夢見る頃は
　ほ　ほ　ほたるが灯（ひ）をともす

2　川風そよぐ　楊もそよぐ
　そよぐ楊に　ほたるがゆれて
　山の三日月　隠れる頃は
　ほ　ほ　ほたるが　飛んで出る

✦蛍

蛍の歌で有名なのは、わらべ歌「ほう　ほう　ホタルこい」ですね。ここで紹介するのは文部省唱歌(小学三年)の蛍のうた。やなぎの字が柳ではなく楊なのは、かわばたやなぎ　とあるように川沿いに生えているやなぎ、つまりネコヤナギやカワヤナギのことで、しだれる柳ではないということです。夏の夕暮れ時に蛍狩りに出かけ、とっぷり陽が沈む夜の7時くらいから幻想的に現れるようです。夕やみ寄せて　山の三日月隠れる頃は、とい時間描写も自然な形で表現されていますね。

花火

昭和十六年

井上赳作詞　下総皖一作曲

1　ドンとなった花火だ　きれいだな
　空いっぱいに　ひろがった
　しだれやなぎが　ひろがった

2　ドンとなった何百　赤い星
　一度にかわって　青い星
　も一度かわって　金の星

✦花火

前曲「蛍」と同じ作者による歌。国民学校初等科一、二年生用の芸能科音楽の教科書に採用されました。夜空に打ち上げられる花火の一コマを、見たままの語り口調で書き上げ、出だしの　ドンとなった　の節で花火の勢いと豪華さと見事に表現していますね。今年の夏の花火大会は隅田川をはじめとし、各地で中止が決まっていますが、心の中で「たまや！」「かぎや！」と声をかけ、来年に期待しましょう。

うみ

昭和十六年　林柳波作詞　井上武士作曲

1　うみは　ひろいな　大きいな
　月が　のぼるし　日がしずむ

2　うみは　大なみ　青いなみ
　ゆれて　どこまで　つづくやら

3　うみに　おふねを　うかばして
　いってみたいな　よその国

✦うみ

穏やかな海の歌として歌い継がれ現在も小学一年の音楽教科書に載っています。1番は海の大きさに打たれる気持ち、2番は無限に続く青い波、3番は海を越えてよその国へのあこがれを歌っています。統制が厳しい時代にあっても実にのびのびとした子ども歌に出来上がっていますね。

3番のおふねをうかばしては、うかばせて　が正しいのでは？と議論され、昭和五十五年からはうかばせてと改訂されています。

海

大正二年

作詞作曲者不詳

1

松原遠く　消ゆるところ
白帆の影は　浮かぶ
干網浜に　高くして
かもめは低く　波に飛ぶ
見よ昼の海　見よ昼の海

2

島山闇に　著きあたり
漁火　光淡し
寄る波　岸に　緩くして
浦風かろく　いそご吹く
見よ夜の海　見よ夜の海

✦海

古くは尋常小学校五年の文部省唱歌。夏の叙情歌として名曲で日本の歌百選に選ばれていますが、言葉の難しさもあり現在では教科書には載っていません。小学時代の私は二番の

島山闇に著きあたり　が難しく、ただ、

シマヤマヤミニシルキアタリ　と歌っていた記憶があります。夜の暗い闇の中でも遠くの半島の影ははっきりわかる、と情景が理解できたのはかなり大きくなってからと記憶しています。ゆったりと歌いたい一曲です。

われは海の子

明治四十三年

作詞作曲者不詳

1

われは海の子　白波の
さわぐ磯辺の　松原に
煙たなびく　苫屋こそ
わがなつかしき　住家なれ

2

生まれて潮に　ゆあみして
波を子守りの　歌と聞き
千里よせくる　海の気を
吸いて童と　なりにけり

3

高く鼻つく　磯の香に
不断の花の　かおりあり
なぎさの松に　吹く風を
いみじき楽と　われは聞く

✦われは海の子

古くは尋常小学校六年の文部省唱歌。詩に描かれた海の光景は、鹿児島湾のイメージだとされています。当初あった7番の歌詞が軍国調であるという理由で教科書から外されましたが昭和三十三年から再び取り上げられるようになりました。明治後期の詩人の作品なので古めかしい言葉遣いもありますが五・七調でまとめられ、節回し(メロディ) が語調にぴったり合っています。男子に人気が高いのは、力強く歌うことで曲のもつ野趣や力感が存分に表現されることからでしょうか。

夏の思い出

昭和二十四年

NHKラジオ歌謡　江間章子作詞中田喜直作曲

1　夏が来れば　思い出す

はるかな尾瀬　遠い空

霧の中に　うかびくる

やさしい影　野の小径(こみち)

水芭蕉(みずばしょう)の花が　咲いている

夢みて咲いている　水の辺(ほと)り

石楠花(しゃくなげ)色に　たそがれる

はるかな尾瀬　遠い空

2　夏が来れば　思い出す

はるかな尾瀬　野の旅よ

花の中に　そよそよと

ゆれゆれる　浮島(うきしま)よ

水芭蕉の花が　におっている

夢みてにおっている　水の辺り

まなこつぶれば　なつかしい

はるかな尾瀬　遠い空

✦夏の思い出

夏が来れば思いだす　この一節を知らない人はいないのでは?夏の定番の一曲ですね。歌詞がおぼろげでも　ラララ・・・　と口ずさむだけで尾瀬の自然が目の前に広がります。雪解けが進み山に入れるようになると、やがて白い優雅な水芭蕉が池塘に咲きほこる・・そんな光景がテレビニュースでは必ず流れます。江間は疎開先で見た水芭蕉を題材に書き上げ、尾瀬に行ったことのない中田は、何度も読み返し日本語のアクセントが美しくメロディに乗るように心がけて作曲したと語っています。この曲のヒットで、ほとんど知られていなかった尾瀬は人気観光地になったそうです。どこまでも続く木道と湿原そして広い空、至仏山と燧ケ岳がそびえたち、ハイキングで訪れた方も多いのではないでしょうか。

見上げてごらん夜の星を

昭和三十八年

永六輔作詞　いずみたく作曲

見上げてごらん　夜の星を
小さな星の　小さな光りが
ささやかな幸せを　うたってる

見上げてごらん　夜の星を
ボクらのように　名もない星が
ささやかな幸せを　祈ってる

手をつなごう　ボクと
追いかけよう　夢を
二人なら　苦しくなんかないさ

見上げてごらん　夜の星を
小さな星の　小さな光りが
ささやかな幸せを　うたってる

見上げてごらん　夜の星を
ボクらのように　名もない星が
ささやかな幸せを　祈ってる

✦見上げてごらん夜の星を

そもそもは昭和三十五年のミュージカルの劇中主題歌、その後坂本九が歌い大ヒット。昭和六十年、日航機事故で不慮の死を遂げた坂本九のこの歌はその後追悼の場で歌われたり、東日本大震災の被災地でも度々多くの歌手によって復興のシンボルとして取り上げられました。時を経ても歌い継がれています。

野に咲く花のように

昭和五十八年

杉山政美作詞　小林亜星作曲

1

野に咲く花のように　風に吹かれて
野に咲く花のように
人をさわやかにして
そんな風に　僕たちも
生きていけたら　すばらしい
時にはくらい人生も
トンネル抜ければ　夏の海
そんな時こそ　野の花の
けなげな心を　知るのです

2

野に咲く花のように　雨に打たれて
野に咲く花のように
人をなごやかにして
そんな風に　僕たちも
生きていけたら　すばらしい
時にはつらい人生も
雨のち曇りで　また晴れる
そんな時こそ　野の花の
けなげな心を　知るのです

✦野に咲く花のように

画家山下清を題材としたドラマ「裸の大将放浪記」芦屋雁之助主演　の主題歌としてダ・カーポが歌いました。小中学校の教科書にも取り上げられています。合唱曲としてもアレンジされ小学生からシルバー世代にも愛されていて、穏やかなそして希望が持てる、静かな力強さを歌い上げた名曲です。

丘を越えて

昭和六年

島田芳文作詞　古賀政男作曲

1　丘を越えて　行こうよ
真澄(ますみ)の空は　朗(ほが)らかに
晴れて　たのしいこころ
鳴るは　胸の血潮(ちしお)よ
讃(たた)えよ　わが青春(はる)を
いざ行け　遥(はる)か希望の
　丘を越えて

2　丘を越えて　行こうよ
小春の空は　麗(うら)らかに
澄みて　うれしいこころ
涌(いずみ)くは　胸の泉よ
讃(たた)えよ　わが青春(はる)を
いざ聞け　遠く希望の
　鐘は鳴るよ

✦丘を越えて

藤山一郎が歌って大ヒットした昭和歌謡で、古賀政男の代表曲でもあります。現在放映中の朝ドラエールの中でもよく登場する一曲ですね。古賀が明大の仲間とハイキングに出かけた時の楽しい青春の思い出一コマを、愛用のマンドリンでメロディを生み出したと言われています。その節に島田が、北軽井沢の浅間牧場の風景を描いて詩をつけました。浅間牧場には丘を越えての歌碑があります。

聴くと歌うでは大違い。実際に歌ってみるとこの曲のもつ明るさ、軽快さ、のびやかさを弾んだテンポで歌うのは実に難しいですね。藤山一郎のようにはいかないものです。でも歌いたい。元気がどんどん湧いてくるから・・・。

参考資料

日本童謡唱歌全集　足羽彰編
童謡・唱歌の世界　金田一春彦著　他

編集　城直美
監修　高島平ココからステーション

(20200701)